

大甲二八

七月十九日
七月三十日

昭和三年七月 日

内閣書記官長

内閣書記官


内閣總理大臣



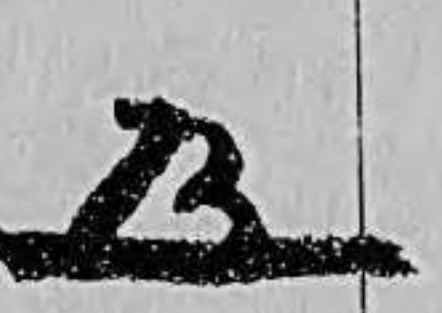
法制局長官



外務大臣



海軍大臣

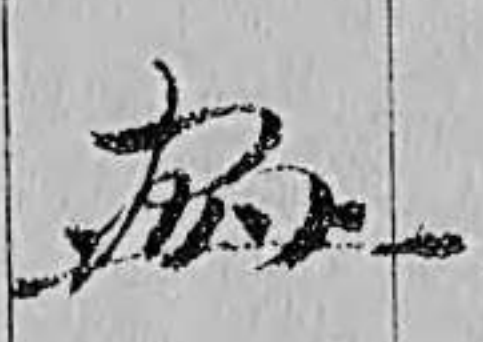


大東亞大臣



櫻井國務大臣

内務大臣



司法大臣



農商大臣



左近國務大臣

大藏大臣



文部大臣



軍需大臣



下村國務大臣

陸軍大臣



厚生大臣



運輸通信大臣



安井國務大臣

別紙内務大藏兩大臣請議戰時緊急措置法
ニ基テ税制ノ適正化ニ関スル件

法制局

九

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ
通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕戰時緊急措置法ニ基ク税制ノ適正化ニ
関スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和二十一年六月二十日

内閣總理大臣

内務大臣

大藏大臣

(起案用紙青三ノ三號)

勅令第 号

呈案附箋ノ通

第一條 戦時緊需措置法第一條ノ規定ニ基ク税制ノ適正化ニ關スル措置ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 配當利子特別税、外債債特別税、建築税、有價證券移轉税、電気瓦斯税、廣告税、馬券税及印紙税ハ之ヲ課セズ

第三條 税務署長ハ其ノ年中ノ營業ノ所得、純益又ハ利益金額方前年中ノ營業ノ所得、純益又ハ利益金額ニ對シ五割以上増加スト認ムル者ニ付テハ其ノ年ノ課算ニ依リ所得、純益又ハ利益金額ヲ計算シ甲種ノ事業所得ニ對スル分類所得税、營業税又ハ營業利得ニ對スル臨時利得税ヲ賦課スルコトヲ得其ノ年一月一日以後新ニ營業ヲ有スルニ至リタル者ニ付亦同ジ

前項ノ規定ハ税務署長ニ於テ其ノ年中ノ不動産所得又ハ乙種ノ事業所得ノ金額方前年中ノ不動産所得又ハ乙種ノ事業所得ノ金額ニ對シ五割以上増加スト認ムル者及其ノ年一月一日以後新ニ資産又ハ事業ヲ有スルニ至リタル者ノ不動産所得又ハ乙種ノ事業所得ニ對スル分

類所得税ニ付之ヲ準用ス

第四條 税務署長ハ其ノ年分ノ所得、純益又ハ利得金額ノ決定後其ノ年ノ豫算ニ依リ計算シタル其ノ年中ノ營業ノ所得、純益又ハ利益金額ガ其ノ年分ノ營業ノ所得若ハ純益ノ決定金額又ハ利得ノ決定金額ノ計算ノ基礎タル利益金額ニ對シ五割以上増加スト認ムル者ニ付テハ所得調査委員會ノ調査ニ依ラズシテ其ノ増加スト認ムル所得、純益又ハ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

前項ノ規定ハ税務署長ニ於テ其ノ年分ノ不動産所得又ハ乙種ノ事業所得ノ金額決定後其ノ年ノ豫算ニ依リ計算シタル其ノ年中ノ不動産所得又ハ乙種ノ事業所得ノ金額ガ其ノ年分ノ不動産所得又ハ乙種ノ事業所得ノ決定金額ニ對シ五割以上増加スト認ムル者ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ所得、純益又ハ利得金額ヲ決定シタルトキハ税務署長ハ之ヲ納税義務者ニ通知スベシ

所得税法第六十七條、第六十八條及第七十一條ノ規定ハ前項ノ規定

ニ依リ通知シタル所得、純益又ハ利得金額ニ異議アル場合ニ付之ヲ準用ス

第五條 第三條又ハ前條ノ規定ノ適用ヲ受ケタル者ノ翌年分ノ不動産所得若ハ事業所得ニ對スル分類所得税、營業稅又ハ營業利得ニ對スル臨時利得稅ノ賦課ニ付テハ第三條ニ該當セザル場合ト雖モ其ノ年ノ豫算ニ依リ所得、純益又ハ利益金額ヲ計算スルコトヲ得

第六條 前三條ノ規定ニ依リ決定シタル所得若ハ純益金額又ハ利得金額ノ計算ノ基礎タル利益金額ニ對シ其ノ年中ノ所得、純益又ハ利益金額ガ三割以上減少シタルトキハ所得、純益又ハ利得金額ヲ更訂ス前項ノ規定ハ相續、贈與又ハ營業繼續ニ因ル所得、純益又ハ利益金額ノ減少ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ所得、純益又ハ利益ニ關スル計算書ヲ添附シ翌年一月三十一日迄ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

臨時租稅稽直法第一條ノ二十六ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ所得、

純益又ハ利得金額ヲ更訂シタル場合ニ於テハ之ヲ通用セズ

第七條 前四條ノ規定ハ不動産所得又ハ甲種若ハ乙種ノ事業所得ニ該

當スル所得ニ對スル綜合所得税ノ賦課ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於

テハ不動産所得ニ該當スル所得、甲種ノ事業所得ニ該當スル所得及

乙種ノ事業所得ニ該當スル所得ノ金額ハ各別ニ之ヲ計算ス

第八條 所得税法第二十四條第一項ノ控除ハ毎月一日現在ノ扶養家族

ニ付之ヲ爲ス

第九條 甲種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得税ノ徵收ニ付テハ徵收税額

二十錢未満ノ端數アルトキハ其ノ端數ヲ切捨ツ

第十條 甲種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得税ハ支拂者税務署長ノ承認

ヲ受ケ三月分以内ヲ取繼メ納付スルコトヲ得

第十一條 酒税法第三十五條第一項本文、清涼飲料税法第六條第一項

本文、砂糖消費税法第七條ノ四第一項本文、物品税法第八條第一項

遊興飲食税法第五條第一項本文、入場税法第六條ノ二第一項本文若

シテ第十四條第一項且書又ハ特別行爲税法第九條第一項本文ノ申告

ノ期限ハ之ヲ翌月末日迄トス

第十二條 酒税、清涼飲料税、砂糖特別消費税、物品税、遊興飲食税、入場税、特別入場税又ハ特別行爲税ヲ納付スベキ時期ハ前條、酒税法第三十五條第一項但書若ハ第二項、清涼飲料税法第六條第一項但書、砂糖消費税法第七條ノ四第一項但書、物品税法第八條第二項、遊興飲食税法第五條第一項但書、入場税法第六條ノ二第一項但書若ハ第十四條第一項本文又ハ特別行爲税法第九條第一項但書ノ規定ニ依ル申告ト同時トス

第十三條 徴收補助團體ノ代表者方第十一條ノ申告書ヲ取繼メ提出スルトキハ當該團體ノ團體員ノ納付スベキ砂糖特別消費税、物品税、遊興飲食税、入場税又ハ特別行爲税ヲ取繼メ納付スルコトヲ得

第十四條 遊興飲食税法第二條第三項ノ規定及同法中納税切符ニ關スル規定ハ之ヲ適用セズ

第十五條 大藏大臣又ハ稅務署長ハ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ國稅ニ付納期若ハ納税ノ告知ニ關スル特例ヲ設

ケ又ハ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第十六條 本令中配當利子特別税トアルハ樺太ニ在リテハ利益配當税及公債及社債利子税トシ大藏大臣又ハ稅務署長トアルハ臺灣ニ在リテハ臺灣總督又ハ州知事若ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官又ハ樺太廳支廳長トス

附 則

本令ハ昭和二十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ臺灣ニ在リテハ昭和二十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條及第四條（第七條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ハ昭和二十年分ノ所得税、營業税及臨時利得税ヨリ之ヲ適用ス

稅務署長ハ分類所得税、營業税又ハ營業利得ニ對スル臨時利得税ノ賦課ニ付昭和二十年中ノ不動産所得、甲種若ハ乙種ノ事業所得、純益又

ハ利益金額ガ前年中ノ不動産所得、甲種若ハ乙種ノ事業所得、純益又ハ利益金額ニ對シ五割以上増加スト認ムル者ニシテ第四條ノ規定ニ該

當セザルモノノ昭和二十年分ノ不動産所得、甲種若ハ乙種ノ事業所得

純益又ハ利益金額及昭和二十年一月一日以後新ニ資産又ハ事業ヲ有スルニ至リタル者ノ當該資産又ハ事業ヨリ生ズル昭和二十年分ノ不動産所得、甲種若ハ乙種ノ事業所得、純益又ハ利益金額ヲ豫算ニ依リ計算シ所得調査委員會ノ調査ニ依ラズシテ所得、純益又ハ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

第七條 後段及前項ノ規定ハ稅務署長ニ於テ昭和二十年中ノ不動産所得又ハ甲種若ハ乙種ノ事業所得ニ該當スル所得方前年中ノ不動産所得又ハ甲種若ハ乙種ノ事業所得ニ該當スル所得ニ對シ五割以上増加スト認ムル者ニシテ第七條ニ於テ準用スル第四條ノ規定ニ該當セザルモノノ昭和二十年分ノ不動産所得又ハ甲種若ハ乙種ノ事業所得ニ該當スル所得ニ對スル綜合所得稅及昭和二十年一月一日以後新ニ資産又ハ事業ヲ有スルニ至リタル者ノ當該資産又ハ事業ヨリ生ズル昭和二十年分ノ不動産所得又ハ甲種若ハ乙種ノ事業所得ニ對スル綜合所得稅ノ賦課ニ付之ヲ準用ス

第四條 第三項及第四項、第五條並ニ第六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ付

之ヲ準用ス

本令施行前ニ課シ又ハ課スベカリシ配當利子特別税、外貨債特別税、
建築税、有價証券移轉税、電氣瓦斯税、廣告税、馬券税、印紙税及遊
興飲食税ニ付テハ仍従前ノ例ニ依ル

理

由

現下諸般ノ情勢ニ即應シ租稅制度ヲ極力簡素化シ併セテ課稅制度ノ適
正ヲ圖ル等應機ノ措置ヲ講ズル爲勅令制定ノ必要アルニ依ル

第四

戰時緊急措置法

昭和二十一年六月
法律第百八号 國家非常及非常
國有及非常及非常

第一條 大東亞戰爭ニ際シ國家ノ危急ヲ克服スル

為緊急ノ必要アルトキハ政府ハ他ノ法令ノ規定ニ拘
ラズ左ノ各號ニ掲グル事項ニ關シ應機ノ措置ヲ講
ズル為必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ為スコトヲ
得

- 一 軍需生産ノ維持及增強
- 二 食糧其ノ他生活必需物資ノ確保
- 三 運輸通信ノ維持及增強
- 四 防衛ノ強化及秩序ノ維持
- 五 税制ノ適正化

六 震災ノ善後措置

七 其ノ他戦力ノ集中發揮ニ必要ナル事項ニシテ
勅令ヲ以テ指定スルモノ

第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ基
キテ發スル命令ニ依リ爲ス處分又ハ同條ノ規定ニ依
リ爲ス處分ニ因リ生ジタル損失ヲ補償スルコトヲ得

第三條 第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令若ハ之ニ依
リ爲ス處分又ハ同條ノ規定ニ依リ爲ス處分ニ違シタ
ル者八十元以下ノ懲役又ハ十萬圓以下ノ罰金ニ處ス
第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ依リ爲ス處分又ハ
同條ノ規定ニ依リ爲ス處分ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シ

タル者八三年以上ノ懲役、五千圓以下ノ罰金又ハ拘
留若ハ科料ニ處ス

國家總動員法第三十五條、第四十八條及第四十九條ノ規
定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條 第一條ノ規定ニ基ク措置ニシテ重要ナルモノ
ニ付テハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ戰時緊
急措置委員會ニ諮問スベシ但シ已ムコトヲ得ザル
場合ニ於テハ事後ニ之ヲ報告スベシ
戰時緊急措置委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之
ヲ定ム

第五條 本法施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之

ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

所得稅

所得稅

總務長官

第十四條 甲種ノ勤勞所得ニ付ル分類所得稅ニ付テハ命令ノ定ムル依リ其ノ年

一月以上ノ扶養家族一人ノ年二十四圓(扶養家族中子以上トキハ年三十六圓)ノ割

ト爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第六十八條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ハ於テ

之ヲ決定ス

所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ共ノ所得ニ關スル事實ヲ質問

スルコトヲ得

第二十八條ノ規定ハ所得審査委員會ノ決議ニ付テ之ヲ準用ス

第七十條 第七十條第一項ノ決定ニ對シ不服有ル者ハ行政裁判所ニ申訴

得

ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

大日本帝國政府

第七條

納税義務者第三十九條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトヤハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徴收ヲ猶豫セズ

第六十八條

前條第一項ノ請求アリタルトヤハ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府於テ之ヲ決定ス

所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第二十八條ノ規定ハ所得審査委員會ノ決議ニ付テ之ヲ準用ス

第七十條

第七十條第一項ノ決定ニ對シ不服アル者ハ行政裁判所ニ訴スルコトヲ得

臨時租稅措置法 第四十二條 (增補) 大藏大臣副署

第一條 第二十六 個人ノ其ノ年中ノ營業所得、純益又ハ利益金額ガ其ノ年ノ營業ノ

所得ノ決定金額若シ純益ノ決定金額又ハ利得ノ決定金額計算ノ基礎トシテ利益金額

ニ對シテ五割以上減少セラルトキハ命令ヲ定ムル所ニ依リ其ノ年ノ當該營業所得ニ對スル

所得稅・營業稅及・營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ左ノ區分ニ依リ輕減ス

減少割合ガ七割以下ナルトキ 稅額ノ十分ノ三

同七割ヲ超スルトキ 稅額ノ十分ノ六

前項ノ規定ハ個人ノ其ノ年中ノ營業ノ所得金額ガ五萬圓以上ノ者又ハ其ノ年中ノ營業

業ノ所得金額ガ其ノ年ノ營業所得決定金額以上ノ者ニ付テハ之ヲ適用セズ

前二項ノ營業ノ所得ノ決定金額又ハ純益ノ決定金額ハ所得稅法第十二條ノ三項及第三

十條第三項又ハ營業稅法第十條ノ三項規定ニ依リ臨時利得稅額ノ控除前ノ金額ニ依リ

第一項及第二項ノ規定ハ個人ノ其ノ年中ノ乙種ノ事業ノ所得ニ該法ノ所得ノ金額ガ其ノ

年ノ乙種ノ事業所得ノ決定ニ對シテ五割以上減少セラルトキ場合ニ付テハ之ヲ適用ス

(國定規格B5(2)×255(柱))

酒類

法

法律第三十五號

總務大臣 拓務大臣 副署

第五條 酒類製造者ハ毎月製造場より移出シタル酒類ノ種類、級別及命

令ヲ以テ定ムルアルニシテ、移出シタル酒類ノ種類、級別及命

價格ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出ス。但シ左ノ各号ノ一ニ該當スル

場合於テハ直ニ其ノ移出シタルモノト看做セシタル酒類ニ付申告書ヲ提出ス。但シ

一 酒類製造ノ廢止ヲ取消セシタルトシ、但シ命令ヲ以テ定リ得ル場合ヲ除ク

二 酒類ノ公賣若シテ競賣セラレタルトキ又ハ破産手續ニ於テ換價セラレタルトキ

後略

第六條 清涼飲料製造者は五月其製造場外に移出する清涼飲料は付第二條

一 區分を其の石数及び炭酸瓦斯の便量等に記載する申告書ヲ五月十日迄之政府

二 提出するに但し前條第二號ノ第三号ノ場合ニ於テハ直之ヲ提出する

申告書ノ提出に於テ又ハ政府ニ於テ申告す不相当ト認めタルトハ政府ハ課税額ヲ

決定す

清涼飲料稅

法律第十六号

總理大臣 大藏大臣 署名

第二條 本法施行地ニ於テ命令ヲ以テ定ムル用途ニ供スル砂糖、糖蜜及糖水ニハ前
條ノ消費稅ノ外特別消費稅ヲ課ス

第七條ノ四 第二條ノ規定ニ依リ特別消費稅ヲ課スルハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ同條ニ規
定スル用途ニ供スル者ニ販賣スル者ハ毎月其ノ販賣シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ種類
毎ニ十數ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スルニ但シ販賣ヲ廢止シタル
場合ニ於テハ直ニ之ヲ提出スルニシ
前項ノ申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相志ト認メタルトキハ政府ハ其ノ課
稅標準額ヲ決定ス

物品検査

物品検査法

(總則 大藏大臣 列署)

第一條

第一種物品ノ小賣業者ハ毎月其ノ販賣シタル物品ニ付其ノ品名
及數量及価格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種ノ物品ノ製造者ハ毎月其
ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名及數量及価格ヲ記載シ
タル申告書ヲ、第三種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ製造場ヨリ移出
シタル物品ニ付其ノ品名及數量ヲ記載シタル申告書ヲ、物之月十日迄ニ政
府ニ提出スルニ

後略

遊興飲食税法

昭和十五年三月
法律第四十五号

(内閣、大藏大臣副署)

第二條 遊興飲食税ノ税率左ノ如シ

一 藝妓ノ花代

料金ノ百分ノ三百

二 藝妓ノ花代ニ類スル料金ニ付命令ヲ以テ是ルモノ(以下其他ノ花代ト稱ス)

料金ノ百分ノ二十

三 藝妓ノ花代及其他ノ花代ヲ付テ遊興飲食又ハ宿泊(洋式ノ旅館以外ノ旅館ニ於テハ宿泊ニ付テハ飲食ヲ含ム)以下同シノ料金但シ藝妓ノ花代及

其他ノ花代ヲ除ク

料金ノ百分ノ百

四 命令ヲ以テ是ルノ料金但シ遊興飲食ノ料金但シ藝妓ノ花代及其他ノ

他ノ花代ヲ除ク

料金ノ百分ノ百三十

五 前各號及第七號以外ノ遊興飲食ノ料金

イ 一人一回三圓五十錢ニ滿タサルモノ

ロ 一人一回五圓ニ滿タサルモノ

ハ 一人一回五圓以上ノモノ

料金ノ百分八十

六 洋式ノ旅館ニ於テ宿泊ノ料金但シ第三號ニ該當スル場合ヲ除ク

イ 一人一回五圓ニ滿タサルモノ

料金ノ百分七十

ロ 一人一回十圓ニ滿タサルモノ

料金ノ百分四十

ハ 一人一回十圓以上ノモノ

料金ノ百分七十

七 洋式ノ旅館以外ノ旅館ニ於テ宿泊ノ料金但シ第三號ニ該當スル場合

ヲ除ク

命令ヲ以テ定ムル一人一泊ノ料金(以下普通宿泊料ト稱ス)ハ七圓ニ滿リ

ハ
カ
ル
揚
食
宿
泊

料金ノ百分ノ二十

口
普通宿泊料が十二圓ニ滿リテ宿泊

料金ノ百分ノ四十

ハ
普通宿泊料が十五圓以上ノ宿泊

料金ノ百分ノ七十

一人一泊ノ宿泊ノ料金中普通宿泊料ヲ超テ全額ニ付テ百分ノ十ヲ加算

ル
レ
ノ
稅
率
ニ
依
ル

前項ノ洋式ノ旅館ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

命令ヲ以テ定ムル料理店ニ於テ第一項第五號ノ遊興飲食ノ料金ニシ

テ一人一回十圓ニ滿リタルモノニ付テハ同項ノ規定ニ拘ラズ稅率ニ依ル

一 一人一回三圓ニ滿リタルモノ

一人一回ニ付 四十五錢

二 一人一回三圓五十錢ニ滿リタルモノ

一人一回ニ付 六十錢

三 一人一回三圓ニ滿タガレモ

一人一回ニ付 一圓五十錢

四 一人一回四圓ニ滿タガレモ

一人一回ニ付 一圓五十錢

五 一人一回五圓ニ滿タガレモ

一人一回ニ付 二圓

六 一人一回六圓ニ滿タガレモ

一人一回ニ付 四圓

七 一人一回八圓ニ滿タガレモ

一人一回ニ付 五圓五十錢

八 一人一回十圓ニ滿タガレモ

一人一回ニ付 七圓五十錢

第一項及第三項、遊興飲食又宿泊料金、前條第一項ニ規定スル

場所ノ經營者ガ遊興、飲食又ハ宿泊ヲ爲シタル者ヨリ其ノ遊興飲

食又ハ宿泊ニ付領收スベキ金額ヲ謂フ

遊興飲食又は宿泊ノ料金ノ算定ニ關シテ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 第一條第一項ニ規定スル場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所

ニ依リ毎月分ニ遊興飲食又は宿泊ノ料金ヲ記載シテ申告書ヲ

翌月十日迄ニ政府ニ提出スルコト但シ經營ヲ廢止シル場合ニ於テハ直ニ

之ヲ提出スルコト

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ

政府ハ其ノ課税標準額ヲ決定ス

多四

○ 入場税法

昭和十五年三月
法律第廿七號
(總理大臣副署)

第六條ノニ 第一種ノ催物若シ設備ノ主權者若シ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ毎月分ノ入場料金ヲ催物又ハ設備ノ種類毎ニ税率ノ區別ニ從ヒ區分シ記載シテ申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スベシ但シ第一種ノ催物若シ設備ノ開催者ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ廢止シタル場合ニ於テ直ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ其ノ課税標準額ヲ決定ス

第十四條 第九條ノ規定ニ運動競技ノ主權者ハ該競技終了後直ニ其ノ特別入場料金ヲ税率ノ區別ニ從ヒ區分シ記載シテ申告書ヲ政府ニ提出スベシ但シ命令ニ於テ定ム場合ニ於テハ翌月十日迄ニ之ヲ提出スベシ

第六條ノ第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ於テ之ヲ準用ス

(國定規格B5(21×25.7))

○特別行爲税

昭和十八年三月
法律第七十号

(内務大臣副署)

第九條 第一條に掲げる行爲を爲す業を営む者は毎月其の爲したる

同條に掲げる行爲を爲す其の種類毎に料金を記載したる申告書を翌

月十日迄に政府に提出すべし但し其の業を廢止したる場合は亦之を直之の

提出スべし

前項の申告書を提出すべき又は政府に於て申告を不相當と認めたるときは

政府は其の課税標準額を決定ス

大日本帝國政府

昭和二十年八月六日

大藏大臣官房文書課



内閣總務課 御 中

七月二十一日官報掲載ノ勅令第四百二十三號戰時緊急措置法ニ基ク稅制ノ適正化ニ關スル件ニ誤植有之候ニ付別紙ノ通正誤方御取計相成度

○大甲ノハハ

